

環境に着目した獣害対策

—ニホンザル、イノシシ、ツキノワグマの場合—

日時 令和8年

1月25日日

14:00～16:00 (受付13:30)

会場 コラボしが21 中会議室
(大津市打出浜2-1)



講 師

野間 直彦

(滋賀県立大学 環境科学部 環境生態学科 准教授)

講 演 内 容

獣害を減らすためには、「害を受けるものを守る」「獣の数を減らす」「環境を変える」の3つの視点に立った対策を同時に進めることができます。

滋賀県は獣害対策の先進地ですが、その中でも一部の地域以外ではまだあまり進んでいない、環境を変える視点の対策についてその考え方をお話しします。

これは獣害問題にとどまらず、地球温暖化時代の地域の未来に欠かせないものです。

プロフィール

1965年千葉県生まれ、里山の自然の中で遊びまわって育つ。

千葉大学理学部生物学科卒、京都大学大学院理学研究科植物学専攻修了、博士(理学)。

森林総合研究所九州支所特別研究員などを経て1998年から滋賀県立大学教員。

渡り鳥による種子散布と果実の熟期の関係、結実数の年変動と鳥獣害、緩衝帯整備による獣害対策、琵琶湖の侵略的外来水草対策、伊吹山の山地草原(お花畑)の保全、などの研究をしてきました。

最近の著書「焼畑が地域を豊かにする一火入れからはじめる地域づくり」(共著、2022 実生社)

お問い合わせ

主催:公益社団法人 滋賀県獣医師会 TEL:077-526-1966